ころの "皆殺し"と "焼き尽し'に他ならなかっ
た。ベトナム戦争は,アメリカallの宣戦布告のな
い,非合法的なベトナム侵略に対する,反植民地
戦争,反帝国主義戦争であり,侵略に対する,や
むなき当然の戦いであった。何故なら侵略者であ
ったアメリカの「 独立宣言」にもうたわれている
ように,生きる権利,自由の権利,幸福を求める
権利をまもるための戦いであらたからだ。ベトナ
ム独立宣言の冒頭には,アメリカの独立宣言が引
用されている,まさに歴史の皮肉といえよう。戦
後の侵略戦争における最大のヴァングリズムは,
このベトナムに対する侵略であろう。しかし,現
代のヴァンダリズムは,基本的人権の擁護,民族
の独立と自由の前に敗北せざるをえなかった(6)。
核兵器
近代戦争,とりわけ第一次,第二次世界大戦は,
世界中にその兵器力の甚大さをみせつけた。まさ
に質と量において,現代ほど殺人兵器の発達した
時代はあるまい。そしてそれは刻一刻と加速度的
に発達している。とりわけ核兵器の出現は,従来
の軍事の様相をかえさせ,人々の価値観を根本的
にゆさぶった。可能性には,実在的可能性と抽象
的可能性がある。1∞ 年前, いや5Cl年前人類は自
らの破滅を予想しえただろうか。確かに歴史上侵
略や戦争等によって,ある民族が絶減したり,激
減したことはあったようだが,地球上からの「人
類の減亡」は,核兵器の出現によって抽象的可能
性から実在的可能性に転化した。その「確実性」
をいち早く察知したバートランド・ ラッセルでさ
え,「不可避的に, 遅かれ早かれ, 人類という種
族の絶減にいたります」(7)と述べるに至り,いく
つかの紛争解決の方法を提起している。
広島市平和公園内にある平和記念館,原爆資料
館を訪ねると,そこに「人類減亡」の縮図をみる
ことができよう。人は誰も,その光景に目をそら
すにちがいない。だがそこには人類の蛮行―現代
のヴァンダリズムの傷跡が残っているのであっ
て,決して目をそむけてはならない「 事実」であ
ろう。今日世界中には,世界の全人類を殺致して
なお数十回分の核兵器が蓄積されているという。
アメリカに於ては, 1日に3発の割合で核兵器が
生産されている。米ソを頂点として核兵器を主軸
にした軍備競争は,通常兵器,核兵器,核兵器運
搬手段,軍事衛星等において,確実に増大してい
る。例えば,広島型原爆は重量が 4トン爆発力が
12キロトンであるが,近代的なアメリカの ICBM
弾頭は,重さが 100キロググラムはどであるにも
かかわらずT N T20万トン(200キロトン)1に相当
する爆発力を有している(0。それが数万発,数百
万発蓄積されていると言われている。従ってその
結果,「戦争の危険はひとつの可能性にとどまる
だけではなく,その蓋然性は時がたった分だけ合
計されて増大し,もし採るべき方策を見い出すの
に成功しないままに十分な時が経過するならば確
実性となるょ
"の
である。
理論と実践において,理論の敗北は実践の敗北
をもたらし,実践の敗北は理論の不十分さを実証、 v/
するものである。核兵器の廃絶の方法について,
今だ明確な解答は出ていない。しかしだからとい
ってlll念主義・ 運命論に陥ってよいものか。少な
くとも自らの生命が,何の宣告もなしにうばわれ
るのである。これ程の歴史上最大のヴァングリズ
ムを人類は許しえるのか。否,許すことは自らの
破減を意「/kする。。。
ヒロシマ・ ナガサキ
「 ノーモア・ ヒロシマ, ノーモア・ ナガサキ,
ノーモア・ ヒバクシャ」は,今日の原水禁運動の
合言葉であり,目標であり,原点である。198年
5月から6月にかけて国連史上はじめて「 国連軍
縮特別総会」が開かれた。戦後の原水禁運動史
上,ひとつの大きな転機となったにちがいない。
国連に核兵器完全禁止を要請する3,5CXl万人の署
名を得て,国連本部では,被爆写真展を開催する 、ノノ
ことに成功した。戦後30余年,アメリカ人はほと
んど原爆投下の悲惨さについて知らされていなか
ったようで,彼らに与えたショックは大きかった
ようだ。彼らにとっては異常なはどの日本人の核
アンルギーは,唯一の被爆国である故に他なら
ず,この真の姿を写真展等によって知らしめた効
果|ま大きいといえよう。
ヒロシマ ●ナガサキに対する原爆投下の真相は
戦後かなり解明されてきた。トルーマン大統領は
1945年 8月 9日に,「われわれは戦争の苦しみを
打切るために,また幾千人というアメリカ青年の
生命を救うために,原爆を使用した」と語ったし,。
確かに原爆の使用によって戦争終結が早まったと
言えようが,そうした単なる軍事的理由からのみ
でなく,アメリカが戦後の対ソ外交に勝つために,
―- 18 -―

V
ヽ
ヽし
つまり国際政治的理由から原爆を投下したことは
歪めない事実であろう。しかも根底には,人種差
別にねざす偏見一白人優越主義一があったと言え
まいか。
77年に引き続き78年の原水禁世界大会は統=的に開催された。久しく政治的対立等によぅて分裂
状態であった大会が,少なくとも若干の対立点を
残しつつも統一的に開催できたことは,30余年の
t風化"の時代に新たな原水禁運動の起点になっ
てゆくにちがいない。しかし日本人のみが「 被害
者」であったわけではあるまい。確かに多くの死
傷者があり,今なお苦しむ被爆者がいる。日本人
が原水禁運動の基盤を「被害者」に立って,原水
禁を叫んだとしても,はたして十分に説得力をも
ちうるかどうか。アジア諸国に対する侵略は,
「 加害者」として多くの「被害者」を生み出した。
そうした意味で「 日本人が自らの犯した戦争犯罪
を卒直に反省し,それをくりかえさないことを,
『みな殺し戦争』の犠牲者に誓うことなしに, 反
原爆をn4_んでも,その声は空しく消えて行くだけ
であろう。自らへの反省のみが,原水禁運動の統
一と,核廃絶への道である」(2という今堀氏 (広
島女子大学長)の示唆は,原水禁運動の基盤は何
に根ざされるべきかをおしえている。
日本現代史におけるヴァンダリズムの主要なも
のに,アジア諸国に対する侵略,みな殺し戦争と
りわけ幾多の虐殺事件があげられよう。また戦後
史のそれには,公害があげられる。水俣病,新潟
水俣病,イタイイタイ病,四日市ゼンソク,スモ
ン病,カネミ油症等の公害,加うるに様々の大気
汚染,騒音,合成洗剤,食品添加物等,有害物質
と環境破壊が高度経済成長とともに拡大した。最
近におけるヴァンダリズムには三里塚がある。全
くなしくずし的に強行開港したが,それは農民の
生活を破壊し,あわせて民主主義にツヒ戦したもの
であった。機動隊員のものものしい光景は,日本
に戒厳令がひかれたのかという錯覚をうけるほど
異様であった。紙面の都合上,これらを詳細に扱
えなし'のは遺憾であるが,いつか良い機会を得
て,詳しく述べてみたい。
第三章現代のヴァンダリズムに対する抵抗
一その基本理念一
ヴァンダリズムに対する抵抗は,結局のところ
「 危機の認識」に他ならない。現実に起こり進行
しつつある危機は,自由権や生存権,教育権とい
った基本的人権を犯しているかもしれない。ある
いは文化を荒廃させ破壊しているかもしれない。
いや核兵器に至つては,人類の全ての文化を,営
為の諸々を破壊しつくそうとしているのである。
「平和」に安住し, 危機の認識がうすれ, 価値観
が多様化した今日,現代のヴァンダリズムは巧妙
に浸透しつつある。ますます生活が困窮し,将来
への不安が高まり,教育の現場では反動化がすす
む。こうした基本的人権の侵害こそ,最大のヴァ
ンダリズムと言えよう。
羽仁五郎氏は「現代がアウシュヴィッツの時代
である事実は直感である」 (アウシュヴィッツの
時代,S48)と述べている。日本軍国主義に対す
る闘争,とりわけファシズムについて言及してい
るが, ファシズムとてヴァングリズムにかわりは
なく,そのために第二次大戦でいったいどれほど
の血が流されたことであろう。羽仁氏は「現代」
の「事実」を「 直感」し,これに抵抗し,これを
阻止しなければ,行きつくところは「 強制収容所
アウシュヴィッツ」だと警告している。敗戦によ
る経済的打撃,ニヒリズムの蔓延,こうした条件
に支えられてナチス・ ドイツは政権を獲得し,や
がて人類史上残酷きわまるユダヤ人殺害を行い,
世界中を戦争の渦にのみこんだ。伊太利において
も日本においても,経済恐慌,独裁化が進行し,
それに反対する者は「非国民」としてきめつけら
れ,やがてヒロシマ ●ナガサキにおける幾多の犠
牲をしいられて敗戦へとつきすすんだ。
現代のヴァングリズムに抵抗し,阻止しうる主
たる視点として基本的人権0の保障をあげること
ができよう。特にこれは近代的市民的権利とし
て,日本国憲法においても明記されてしヽるもので
ある。市民革命におけるブルジョアジー思想の拠
り所は,自然法から説明される社会契約説であ
り,彼らの諸権利は市民的権利として各国憲法や
独立宣言に明記されるに至る。「 人間は法の下に
自由で且つ平等である」という基本理念は,封建
制を打倒し資本主義社会を生成・ 発展させるうえ
に重要な貢献をはたした。しかし資本主義社会の
矛盾が露呈し激烈を加えてくるに至り,自由と平
等は形式的になり,むしろ自由権は侵害され不平
等が広がる。アメリカが1776年 7月 6日英国から
独立したその宣言文には「 われわれは;自明の真

理として,すべての人は平等につくられ,造物主 ためには,この限界をこえなければならないであ
によって,一定のゆずりわたすことのできない権 ろう。しかし」少なくとも今日においては,一定
利が与えられていること,この権利のうちには生 の限界を有しているにもかかわらず (実はこのこ
命,自由および幸福の追求がふくまれていること とが重要なのであるが),形式的にしろ自由と平
を信じる」とうたわれ,I「革命権」をも承認して 等は達成しうるものであろう。つまり,終局的に
いる。しかしそのアメリカは,内にはインディア はその限界をうちやぶって新しい社会を形成する
ンの迫害,黒人差別等,外では植民地主義ベトナ 必要があるが,その限界内でも自由と平等の達成
ム戦争などの対外侵略,核兵器による威嚇等の諸 すなわち基本的人権の獲得,擁護,保障を求める
問題をかかえてきた。そこには,もはや独立宣言 ことは可能であり必要なことである。いや,資本
とはかけはなれた白人優越主義的帝国主義的国家 主義社会であるからこそ,そうしなければならな
になりはててしまっている。ニクソンが独立200年 ぃ。
を祝う大統領になるべく,ウォーターゲート事件 例えば, 差別問題とは,「基本的人権が侵害さ
をひきおこしたことは実に象徴的だったと言えよ れ,とくに近代社会における原理として何人にも
う。 保障されている市民的権利と自由を完全に保障さ
さて資本主義社会における基本的人権は,ブル れていない」(。ことであり,水俣病や四日市ゼン
ジョア市民革命の時代までさかのぼることができ ソク等の一連の公害病も,生存権 (生活権),環
る。もはやアメリカが独立宣言の主旨を忘れてし 境権の侵害であって,ヴァンダリズムに他ならな
まったように,今日の資本主義的基本的人権には いのである。
一定の限界があることが露呈してきている。つま ヴァングリズムとは基本的人権の侵害であり,
り,明文化された基本的人権には,例えば搾取の 危機の認識によって把握され抵抗され阻止されう
自由,差別の自由といった「 自由権」,経済的不 る。その基本理念が,基本的人権の擁護である。
平等といったものを,法律上 (憲法上)認知する 認識の主体は,自ら労働を行い生活する個々人で
という形式をとっている。結局このことは,ブル ある。自らの労働の中に,生活の中に,ひいては
ジョアジーが市民社会をうちたてて自らの権利を 社会の中に,進行しつつあるヴァンダリズムを認
認めさせていった本質に他ならない。従って資本 識し,これを阻上しなければ自らの人権は,生活
主義社会における基本的人権には,一定の限界を はおかされ,つきるところ「 減亡」することにな
有するものであり,完全な自由と平等を獲得する る。
(注)
(1)芝田進午氏は,「現代文化論の課題」 (唯物論 9所収, 1978/5, 汐文社)の中で, 文化絶滅・ ‚±Ž‘‚ÉŽ• ,•u‚¯
‚É•qaˆ€Ø/�•½‚ÅŽ•–@HØ,€‚ÄM‚Ì5y„•"¤†@HðÈÖÀ ŒÀ ‚M•¶‚È&HÒÉ•Š “c
(1)rÂ� ‚öH
)‚Ì ,‚Â ‚ìå HÙ60 “c
À™…Ø."Dˆ€$Ø*ÿ‘d•‚É5‡ HÙÂ	,
“c
“c ,•u“c•½èr•’Â�‚µŒ» 4DØ,“Id••’˜ˆMŽ•| ‘$Ø")ÖBM’†˜PŒÀŒ» •Dr‚È
!…Ø.œŽˆ„M‚Âù M˜Y5‡ HÙ,
“c˜PcRÂ� •øˆADØ(“•`Â6y&•‚È4èd„Ž5‡ HØ, •vI s4’ÈˆÒÈRp$l Œ» $Ý‚Å‚ÂŠæÔOˆÒ’’ƒ”•`E
Ž4h€ Œ»@ŒÀŽ6“XHSF#g’x$ˆØ,ƒgI3D1Ø,ˆˆ•$Â,¸ “c˜Yn€‘à$ÙŒ‚a•| –M‚è•ÂI8Ù•u` ‚éå&MŽ•“à	M˜XÔx†-ŒÀ
! •½‚È¦¤“F&À ˜V‚È8–•Œ –MV'ãZI8Ù•u`
’Â� ‚Ã®5‡ HÙ•u` Ž 8  ˆ $ Ø Ì  • ‘ s † f x [Ý ° ˜ ‰ Ê B  ‹ † ‚ È ˆ ˆ Ý  ©
 (€ B P Ø è  ¤ X f  •  € ˜ Y K F  • r Â � ‚ â  ˆ ¦ ¤ “ • ˜  V • – â ` „  M ‚ É n € ™  Ø Ì � ‚ È 8 ¨ f • Â , ¸ $ • ’ e † D • R Â � Â , ¸, • u –  G ( , , ´ ` H Ù • u ` ‚ É I ‰{ø‰±ÝŒÀŽ98ˆAD„5ç blðÉ*ˆAMaXE–ó†h×Ø,„X$ðÉJÖBFÀ ,•uÂ€$� ˜V,•uÂr‚ÂÅ$“•˜V‚È*¦r‚È*€G(,‚é`†„ØâBI4•bÂ�
‚È8¶•Œ •u`Dr‚ÅHþÔ“•˜V

―

´

(9)B・ ラッセル「常識と核戦争」p.13参照。
⑩ 芝田進午「現代の課題1」 (青棲店)参照。
0)前田寿「核時代の軍縮」(潮出版)参照。
⑫ 「講演内容には, 日本人としての反省がまったくふくまれず,人類を告発するという姿勢に終始している。 こんな考え方で,国連に出ていくことは,人間としての『思想』に欠ける行為だと思われる。」 と今堀氏は, 国連における田中里子さんの講演を総括し,「原爆を告発するものは,三光作戦などを, ほおかむりで済ますわけには行かない。まず日本人としての非をわびた後,人類に警告を発すべきではないか。」 と, 原水禁運同#. eﾈ Hﾒﾉ#."ｰ っ出りﾔ」 わ日 � を“